

役割を果たす

～責任を持たせる～

ポイント3



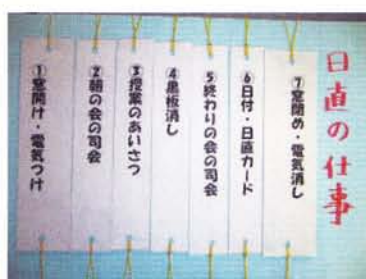
責任を持って自分の役割を果たし、周囲に認められることを通して、自己肯定感や自己存在感が育ちます。一人一人に役割を持たせ、最後までやりきる経験を積み重ね、責任感を育てましょう。

●役割の明確化●

一人一人に役割を持たせやりきらせるためには、「この仕事は誰がやるのか」「どんな仕事内容なのか」を明確にし、表等にして掲示することが大切です。仕事内容を一つ一つ確認して裏返していく『日直の仕事確認カード』などは、責任を持って役割をやりきらせるための有効な方法です。

●自主的な活動を支援する手立て●

子ども任せにしすぎると、活動がうまくいかなくなることがあります。係や当番活動が充実するよう話し合いの時間を十分に確保しましょう。また、計画を立てたり、活動の途中で振り返りをしたりして、よりよい学級を目指した活動を工夫させたいものです。『係からの連絡コーナー』などを設置し、活動について自由に広報させることも、自主的な活動を促すために有効な方法です。



仕事を終えて、めくっていくと・・・

全部終わると、「ごろうさまでした」の文字が現れます。



背面黒板を紙テープなどで区切って『係からののお知らせコーナー』にしています。



背面掲示板を活用した係のポスター。振り返りメモを重ねて貼っていきます。

特別支援教育の視点より

学校生活を安心して過ごすためには、まず、時間や場所の使い方が分かり、見通しが持てるということが大切です。「いつ」「誰が」「どこで」「何を」「どうするべきか」を明確に示せば、一つ一つ指示がなくても主体的に行動でき、子どもにとって学校生活が非常に楽になります。

ポイント1

生活の見通しが持ちにくかったり、予定変更があったりすると、とても不安になる子どもがいます。1日の見通しが持てるようにしておけば、誰もが安心して過ごすことができます。また、授業の始めと終わりの挨拶は、時間の区切りを意識させるのにとても有効です。

ポイント2

子どもが提出物を確実に出すためには、提出物、提出の方法が明確になる必要があります。そのためには、提出方法や提出場所について、しっかり理解させる指導が大切です。どうするべきかが明確に理解できていると、子どもは主体的に行動しやすくなります。

ポイント3

学級で子どもたち一人一人が充実した生活を送るためには、自分の役割を知り、責任を果たすことがとても大切です。仕事の内容と役割が分かっているならば、取り組める子どもがほとんどです。